

古島敏雄 ふるしま としよ 農業經濟史學者、農學博士。明治四十五年四月十四日長野縣生れ、平成七年八月歿（一九二一年）。昭和十一年東京帝國大學農學部農業經濟學科卒。二十四年東大教授、翌年一橋大學教授兼任。のち專修大學教授。『古島敏雄著作集』全三卷（昭和四十九年、五十八年）刊。

著書『寄生地主制の生成と展開—京都府乙訓郡久我村の實證的研究』（論著、昭和二十七年二月十日岩波書店）、『地方史研究法（近代地方史研究と社會科教育）』（昭和二十年一月二十一日東京大學出版會「東大新書」）、『製絲労働者の歴史』（合著、昭和二十年十月二十日岩波書店「岩波新書」）、『日本農業史』（昭和二十一年十二月二十日岩波書店「岩波全書」）、『日本史』（共編、昭和二十一年五月二十日岩波書店「岩波小辞典」）、『日本地主制史研究』（編、昭和二十二年六月二十日岩波書店）、『土地の刻まれた歴史』（昭和四十一年十月二十日岩波書店「岩波新書」）、『近代化の経済的基礎』（共編、昭和四十一年四月二十日岩波書店「大塚久雄教授還暦記念」）、『百姓伝記』全二冊（校注、上・昭和五十一年四月十八日、下・六月十六日岩波書店「岩波文庫」）、『近世經濟史の基礎過程（主頁収奪と共同体）』（昭和五十一年九月二十八日岩波書店）、『子洪たち』の大正時代—田舎町の生活誌』（昭和五十七年五月十日平凡社）等。

